

## 平成24年度県立学校経営予算プレゼン枠事業レビューシート

学校名	岡山県立落合・久世・真庭高等学校
事業名	こちら高校市民課防災係～今、高校生にできること～(略称:こち防)
事業の必要性・テーマ	<p>テーマ: 東日本大震災で、絶望と混乱から一早く抜け出した高校生達(大船渡市等)が、避難場所等で誘導や防寒に活躍し、地域に大きな勇気を与えた。被災時に限らず、前向き・ひたむきで体力・適応力に優れた高校生が地域に果たす役割は大きい。また、高校が能動的に地域参画することで、生徒は、社会の重要な一員としての自覚を深め、幅広い問題解決力を養い、その他全般における学習意欲を高めることができる。</p> <p>活用できる本校の資質等: 1. 本校(以下、真庭三高校とする)は普通科、看護科・専攻科、生物生産科、食品科学科、家政科から成り、食と健康、防災、地域貢献をテーマに、文化祭やその他イベント、総合的な学習の時間等で活発な活動・実践を行なっている。 2. 平成23年度に「お見米プロジェクト」(別紙)を実施し、被災校である宮城県農業高等学校(以下、宮城県農高校とする)と高校生間交流を始め、「今、高校生にできること」について共に考え、提言・地域参画を行うことを誓い合った。 3. 平成21年度から「三者(生徒・保護者・教員)協議会」を、平成23年度から「地域フォーラム(生徒・保護者・教員・地域)」を実施しており、意見交換や協力要請の場を得ている。 4. 事実上の避難場所として高校では何を準備するか、また、高校は地域にいかに関与するか、が昨今の重要なテーマとなっている。</p>
事業の概要・進め方	<p>8月 宮城県農高校、舞子高校の高校生を真庭市に招待し、真庭三高校の高校生と共に合宿を行い、大学の先生を招いて防災、地域連携について研究する。 10月 地域の保育園、老人保養施設、病院との合同避難練習を実施する。 12月 地域報告会で発表・提言を行う。 1月 報告書、プレゼン資料を作成し、県内外に発表・提言を行う。</p> <p>各学科ではそれぞれプロジェクトを進める。 普通教科(国語、数学、理科、社会、英語、保体、家庭科、芸術)において、防災をキーワード・テーマとした授業展開を図る。 生物生産科では、安心・安全な非常食の原材料(アイガモ米)を生産する。これを行う主な理由は次の2点である。①減農薬による安心・安全な米を生産することは、農業高校がすべき防災の象徴である。②他の商品(非常食)の原材料と差別化でき、採算上も有効である。</p>
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 普通科を中心に、調査・企画・実行・発表を行う。</li> <li>2. 看護科・専攻科を中心に、非常用備蓄品(簡易トイレ、救急箱)について研究し、配備を行う。</li> <li>3. 生物生産科・食品科学科を中心に非常食の研究・試作を行う。</li> <li>4. 家政科を中心に、防災カレンダー、防災頭巾など防災グッズの研究・製作を行い、また、幼児、高齢者への対応について研究・提案を行う。</li> <li>5. 「防災」をテーマにした授業(1授業時間)を、全教科が計画・実施する。</li> <li>6. 実践を報告書、プレゼン資料にまとめ、地域および県内外に発表する。</li> <li>7. 第3次おかやま夢づくりプランにある「高校生地域防災ボランティアリーダー」を養成する。</li> </ol>

## 平成24年度県立学校経営予算プレゼン枠事業レビューシート

実績と成果	<p>地域フィールドワークバス研修(7月26日)、防災研修合宿(8月4日～8月7日)、VL養成研修県北編(8月6日)、VL養成研修県南編(8月7日)、久世地区合同避難訓練(10月4日)、落合地区合同防災訓練(10月17日)、落合地域フォーラム(12月8日)、エスパス地域報告会(1月24日)、防災講演会(講師6名)、防災授業(22回)、こち防企画会議(10回)、報告書脱稿(1月31日)を実施。住民会、消防団、消防署、小学校、こども園、市危機管理課、県教育委員会との連携が実現した。報道では、全国規模が3回、県内規模が10回、地域規模多数である。</p> <p>特に、生徒実行委員の意識の高まりは予想を超えるものであった。これは、宮城県農業高校、舞子高校との生徒間交流の効果である。また、折しも危機管理に力を入れ始めた真庭市との連携が予想以上に進み、市全体の防災意識の高まりに貢献できたと思う。</p> <p>高校生が社会に参画することで成長する、高校が地域防災のコーディネーター役として機能する、誕生間もない真庭高校の両校地が盤石の連携を行う、などの目標に対して、確実に進めたことは間違いない。</p>	達成率	110%
今後の課題	<p>残念だったのは、毎日新聞の「防災甲子園」で、有力候補と言われながらも受賞を逃したことである。直接的な被災地復興支援ではない、教員主導の度合いが高い、と判断されたことが要因と思われる。</p> <p>今後の課題としては、持続可能な内容を抽出して再考する、実行委員以外の一般生徒の意識まで十分に高める、地域全体により大きなうねりを生ませる、県下あるいは全国から学校視察が来るほどの周知を得る、ことなどが挙げられる。</p>		

## 平成24年度県立学校経営予算プレゼン枠事業レビューシート

学校自己評価	5段階評価	⑤ ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
	次年度以降の継続性	<p>本年度得られた地域連携システムを資産として、高校生と地域の大人の連携を進めるとともに、今後はさらに、高校生が防災について小中学生を指導するようなシステム作りに取り組みたい。このことは、順次学年が上がり、世代が交代していく過程で、強い継続性を生むものである。そのために、ゲーム性を採り入れた防災イベントの研究・開発・実践を行いたいと考える。</p> <p>次年度の、県教育庁指導課主管事業(学力向上・地域貢献)および同庁学校教育課主管「高等学校魅力化プロジェクト支援事業」にも応募したい。</p>
主管課評価	5段階評価	5 ・ ④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
	見直しの余地改善提案等	<p>学校での研修会や授業だけでなく、地区の合同避難訓練やフォーラムなどに積極的に関わることによって、生徒実行委員会を中心とした多くの生徒の意識が高まっている。また、防災意識を持って動いている真庭市と連携して、地域の防災拠点として期待されるまでに至った点は目標を充分達成できていると評価できる。</p> <p>今後も、市行政や地域住民たちと連携しながら、生徒一人一人が意識を持って地域防災の拠点として機能を果たすことを期待する。</p>
委員評価	5段階評価	⑤ ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
	指摘・指導・助言	<p>防災をテーマとするプロジェクトを通して、生徒・教員、さらには真庭市が地域との結びつきを強く持つことができたことを評価する。とくに、地域に対して閉じた存在になりがちな学校の殻を打ち破ろうとする意欲的な取組がなされてきたことを高く評価したい。</p> <p>このプロジェクトを進める中で、生徒自身が学習と経験を積み、一市民として防災と地域について新たな視点を身につけてきたこと、特に、実行委員会の生徒が、中学生に直接働きかけるなど、自ら考えて行動できる地域防災のリーダーとしての自覚を持ち始めている様子はとくに高く評価したい。</p> <p>また、別校地・複数学科がある中で、学校全体の取組として各教科において「防災」を共通テーマとした授業を展開し、成果を蓄積したことは、カリキュラム開発という点からも、他校に対して大きなヒントとなる取組であろう。</p> <p>さらに、中山間地が抱える地域防災における課題解決の模範となるべく、次年度以降も継続して取り組むことを期待したい。</p>